

PARNASSIUS

No. 23

目 次

コノマチョウ属2種の採集記録について.....	浅 田 卓.....	1
淡路島のナガサキアゲハ.....	堀 田 久.....	2
淡路島の蝶類調査報告.....	広 畑 政 己.....	5
ゴイシジミ淡路島に産す.....	堀 田 久.....	8
トラフシジミ三熊山にも産す.....	登 日 邦 明.....	8
淡路未記録のカミキリ8種.....	金 田 昌 士.....	9
トサヒラズゲンセイ淡路島に産す.....	登 日 邦 明.....	9
洲本市でゴイシジミを採集.....	林 俊 雅.....	10
ゴイシジミの異常型.....	堀 田 久.....	10

淡 路 昆 虫 研 究 会

ENTOMOLOGICAL ASSOCIATION OF AWAJI
HYOGO JAPAN

September 1980

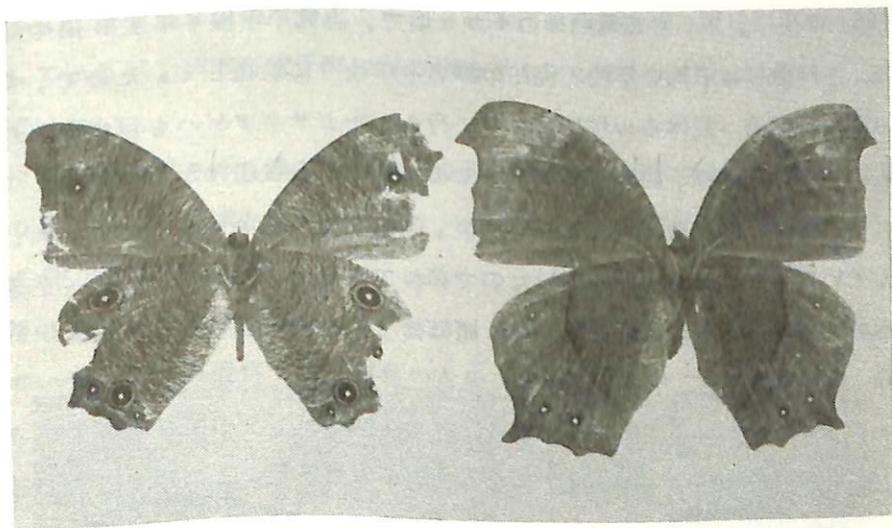
コノマチョウ属 2種の採集記録について

浅田 卓

淡路島においてコノマチョウ属 2種を採集したので報告する。

1. ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda* Linnaeus 1♂, 兵庫県洲本市本町,
1. VIII. 1980. 筆者採集
2. クロコノマチョウ *Melanitis phedima* Cramer 1♀, 兵庫県津名郡五色町広石
中, 2. VII. 1980. 筆者採集

ウスイロコノマチョウは、洲本バス・ターミナル付近の薄暗い路地に静止しているところを発見、捕虫網を持っていなかったため採集の際汚損してしまったが、淡路島では初記録の迷蝶である。



ウスイロコノマチョウ(左)とクロコノマチョウ(右)の裏面

クロコノマチョウは、林道紺原線入口付近の、木立ちに囲まれた路傍の葉上に静止していた。場所は昨年本種を採集した箇所の隣の谷筋であり、目撃例(1ex, 23・VII・1980)もあることから、低密度ながらも当地にて発生の可能性は高いと思われる。また食草については詳しく調べた訳ではないが、ジュズダマは見当たらないのでおそらくススキと推察される。今後他のステージを発見することにより、発生・定着の確証をつかんでいきたい。

なお、標本は筆者が保管している。

淡路島のナガサキアゲハ

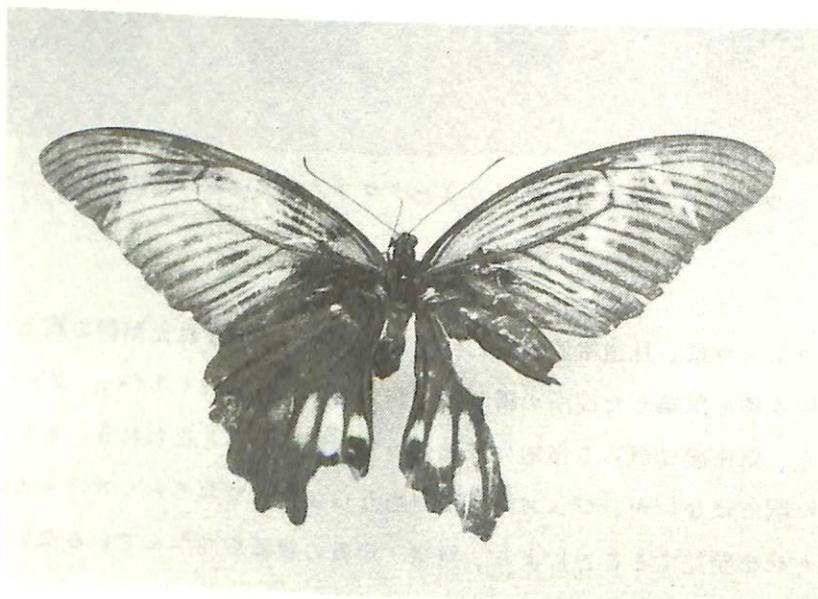
堀 田 久

淡路島の蝶を語るとき、ナガサキアゲハを忘れてはならないだろう。淡路島で採集されたものが兵庫県下の初記録となったばかりでなく、本種が確実に土着しているのは県下で淡路島だけである。

兵庫県下のナガサキアゲハについては、1966年に山本広一氏が「兵庫生物」に詳しく報じられた。また、1971年には神戸新聞の兵庫探検「自然編」で、淡路島のナガサキアゲハが大きく取りあげられ、筆者もその取材に協力したが、ここでは、本種の発見のいきさつや、淡路島における最近の状況について報告しておきたい。

1. 発見のいきさつ

この蝶は1951年8月、津名町志筑明神のミカン畑で、志筑小学校4年生の畠中弘君によって採集された。当時筆者は志筑中学校（現在の津名中学校）に勤務していたので、その年の9月に隣にある志筑小学校へ夏休みの作品展を見に行き、ナガサキアゲハを目に止めたのである。粗末な空箱に入れられた蝶は、白斑も鮮かな雌であったが、右後翅はかなり破損していた。四国か九州あたりで採集したものだろうと思ったが、念のために確かめることにした。さいわい筆者が担任していた学級に採集者の姉がいたので尋ねてみたところ、間違いなく志筑のミカン畑で捕えたものであり、しかも2頭採集して1頭は捨てたとのことであった。



兵庫県下で最初に採集されたナガサキアゲハ（♀）

淡路島ではそれまでナガサキアゲハを見かけたこともなかったので、珍しいものと思い、北隆館発行の月刊誌「新昆虫」のムシペン欄に発表しておいた。後になって、これが兵庫県下における初記録であったことを知り、筆者自身驚ろいたのである。

なお、この蝶は畠中君からもらい受けて、今も当時の姿のまま大切に保管している。

2. 土着と分布状況

筆者自身が淡路島でナガサキアゲハを採集したのは、それから7年後の1958年7月27日のことで、洲本市安乎町のミカン畑で産卵のために飛来した雌を捕えた。その後は津名郡の大町・塩田・塚・下塚、洲本市の下加茂・物部・大野・由良・上灘・中川原・先山・三熊山・曲田山、三原郡の広田・阿万・福良・灘・諭鶴羽山・諭鶴羽ダムなどで確認され、その数も多くなっている。筆者がこれまで勤務していた由良中学校や青雲中学校などでは、時おり教室へ迷い込んでくることがあった。なお由良では春型もかなり多く見られた。

本種は、最初四国の徳島あたりから淡路島に飛来し、夏の間だけ繁殖していたのが、1960年代になって土着するようになったと考えられる。それも由良・灘など淡路の南部地方では確実に土着しているが、洲本市安乎町では本種の見られる年と全く見られない年とがあり、まだ土着はしていない。

なお、今年も島内のあちこちで本種をよく見かけるが、安乎町北谷においても極めて多く、オニユリの花に好んで飛来し、ナルトミカンやナツミカンの葉に盛んに産卵している。

3. 雌の白斑の変異について

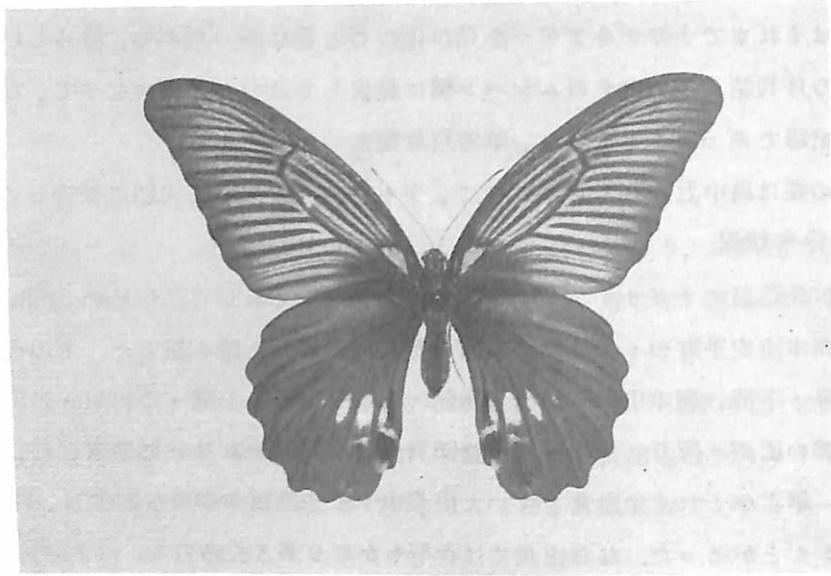
本種の雌の後翅の白斑は地域によって大きく差があり、一般に南下するほど大きくなることが知られている。筆者の観察では淡路島のものは他地域に比べて白斑が小さく、飼育したものは野外のものよりさらに小さくなる傾向が見られる。

この白斑は同じ地域のものでもかなり変異があり、いちがいに地域差を論じることは出来ないが、参考までに手元にある標本に基いて、淡路島産と他地域産のものを比較してみた。

屋久島産……1室から6室まで白斑が明瞭に認められる。

福岡産……1室から4室まで白斑が明瞭、5室はかすかに認められる。

淡路島産……1室から3室まで白斑が明瞭、4室はかすかに認められる。



淡路島産のナガサキアゲハ（♀）

4. 飼育記録

次に洲本市安乎町における本種の飼育記録をあげておくが、これは成長の最も早かった個体の記録である。

1978年7月20日、洲本市安乎町でオニユリの花に飛来した雌を捕え、ナルトミカンの枝にかぶせた網袋の中に放す。

1978年7月21日 産卵

7月26日 孵化（1令幼虫）

7月29日 1眠起（2令幼虫）

7月31日 2眠起（3令幼虫）

8月4日 3眠起（4令幼虫）

8月7日 4眠起（5令幼虫）

8月13日 前蛹

8月26日 羽化（雌）

なお幼虫も網袋の中で飼育したが、産卵から羽化までの日数は、最も成長の速かった個体で36日であり、最も成長の遅かった個体で40日であった。

淡路島の蝶類調査報告

広畑政己

登日(1974)によると、淡路島で1974年までに採集及び目撃された蝶は偶産種も含め8科69種が報告されている。その後高田忠彦氏、井手敏晴氏の分布調査によって、ウラミスジシジミ、ウラジロミドリシジミ、ヒロオビミドリシジミ、ウスイロオナガシジミなどの *Ze-pyrus* 4種と石原ほか(1973)のヤクシマルシジミなどが加わり現在では8科76種に達している。

この中にはミカドアゲハ、エゾスジグロシロチョウ、クロシジミ、スミナガシなど採集例が極めて少ない種があるが、筆者はこれらの種のうちミカドアゲハ、エゾスジグロシロチョウの2種と、食草のツメレンゲがあるがまだ発見されていないクロツバメシジミの分布調査に淡路島を訪れた。

この度の分布調査の主目的であった前記3種については期待通りの成果を収めることはできなかったが、調査の過程でシルビアシジミの新しい生息地を発見することができたので、ミカドアゲハの淡路島に於ける土着の可否についての思考などを交えてその結果を報告した次第である。

調査に当っては尾崎勇、登日邦明氏に御協力いただいた。いつもながらの御厚意に深く感謝申し上げます。

1. ミカドアゲハは淡路島で土着できるか

本種は九州から南西諸島にかけては広く分布しているが、食樹であるオガタノキ属のオガタノキやモクレン属のタイサンボクなどの分布が温暖な地域に限られるため、近隣での本種の生息地は四国、和歌山県、三重県など太平洋沿の暖かい地域にしかその生息地が知られていない。

淡路島ではこれまでわずか2例(津名郡津名町佐野 — 1958 1♂ 登日邦明²⁾、同町志筑明神 — 1964 2 exs. 奥野修久²⁾)が知られているだけで、これら3頭の個体は四国、和歌山などの産地から飛来したものと考えられている。

本種が土着するためには当然のことながら食樹が分布していることと越冬できるだけの冬期気象条件が満たされていなければならない。

主な食樹であるオガタノキは兵庫県では姫路市網干の魚吹神社、神崎郡市川町下瀬加の神積神社、同郡福崎町福崎高校校庭、神戸市垂水区の太山寺などが知られており、その数は極めて

て少なく、淡路島でも沼島³⁾と洲本市中津川の白髭神社が知られているだけで、本種が生息するには少々ものたりない感じがする。しかし四国の生息地に於て自然状態で食樹になっているタイサンボク⁷⁾は淡路島でも庭木として植えている家が多く、本種が飛来すれば食樹に遭遇するチャンスがオガタマノキだけの場合よりはるかに多くなるということになる。

一方冬期の温度についても、1979年12月～1980年3月の姫路市に於ける自然状態での越冬実験で充分越冬できることを確認している。実験には高知県産の2頭の蛹を使用し、樹高1メートル程のサザンカにつるし、12月から3月までの4ヶ月間そのままの状態に放置した。この間の気温は表1の通りで、4ヶ月間の平均気温は3.4℃、最低平均気温は0.4℃で越冬しており、姫路市より温暖な淡路島では冬期の温度もなんら問題はないものと思われる。

表1. ミカドアゲハが越冬した姫路市の気温(℃)

月	平均気温	最高平均気温	最低平均気温	最低極値	0℃以下の日数	平年差
12月	7.3	13.5	2.3	-1.8	7	+1.9
1月	3.8	9.3	-0.5	-5.0	23	+0.3
2月	3.0	8.9	-1.9	-6.1	23	-1.2
3月	6.9	12.2	1.8	-1.9	11	+0.3

(1979年～1980年, 姫路測候所調べ)

淡路島に隣接する徳島市眉山では5月中旬ごろより多数の個体が得られており¹⁾、個体群の密度も高くなっているようである。従って近接する淡路島には飛来する頻度も高くなっている。このような理由から淡路島でも土着しているのではないかと淡い期待を持って洲本市中津川などを訪れたが結局本種を発見することができなかった。しかし満足とはいえないが土着の条件も整っているので今後よく調査を行えば再発見できるものと希望は捨てていない。

2. シルビアシジミの新しい生息地

淡路島では本種は現在までのところ津名郡富島、大町、洲本市安乎町、中川原町、竹原、曲田山⁵⁾から記録されている。

新しい産地は洲本市津田と東浦町釜口で、いずれも水田の土手に本種は生息している。洲本市津田ではミヤコグサとコマツナギが見られたがミヤコグサが多く、釜口では何段にもなった土手一面にミヤコグサが咲き乱れていた。

しかし本種の個体数は食草に比較すると少なく、双方で8頭を確認しただけである。

食草が多いことと時間的な関係もあって卵や幼虫の確認はできなかったが、ミヤコグサを食草としているようである。この他にもミヤコグサの生息地を数ヶ所発見した。よく調査を行え

ば全島にはまだかなりの産地があるものと思われる。今後の調査を期待したい。採集記録は次の通りである。

洲本市津田 11 V 1980 1♂ 広畑政己
 東浦町釜口 11 V 1980 2♂2♀ 広畑政己
 11 V 1980 2♂1♀ 尾崎 勇

3. エゾスジグロチョウなどその他の採集記録

この度の調査はミカドアゲハ、クロツバメシジミが主目的であったため、シルビアシジミの他は新しい知見は得られなかった。しかしこれまで津名郡常隆寺山麓³⁾と北淡町江崎⁶⁾の2ヶ所しか記録のなかったエゾスジグロシロチョウを佐野興隆寺で再び採集した(津名郡佐野興隆寺 11 V 1980 1♂1♀ 広畑政己, 同 2♂ 尾崎 勇)。発見した産地は佐野の部落を過ぎた谷あいの川筋で、採集した個体はすべて本種で、スジグロシロチョウの姿は見られなかった。食草などについては残念ながら確認ができていない。その他の採集記録については表2の通りである。

表2. 採集記録一覧表

種名	地名	洲本市中津川	洲本市津田	東浦町釜口	津名町佐野
アゲハチョウ		○			
ジャコウアゲハ		○			
カラスアゲハ		○			
モンシロチョウ		○			○
エゾスジグロシロチョウ					○
モンキチョウ				○	
ツマキチョウ		○			
キタテハ					
ヒメアカタテハ				○	
コミスジ		○			
ヤマトシジミ		○	○	○	○
ルリシジミ		○	○	○	
シルビアシジミ			○	○	
ベニシジミ		○	○	○	○
ツバメシジミ		○	○	○	
ヒメウラナミジャノメ		○			○

(採集日…… 1980年5月11日)

参考文献

- 1) 天羽龍太郎(1977)徳島県のミカドアゲハ 昆虫と自然 Vol. 12 №3
- 2) 山本広一(1969)兵庫県下のミカドアゲハについて 兵庫生物 Vol. 6 №1
- 3) 登日邦明(1974)淡路島の蝶相(1) 住香蝶 Vol. 26 №98
- 4) 高田忠彦・井手敏晴(1978)兵庫県産蝶類調査報告 MDK NEWS Vol. 28 №79
- 5) 石原ほか(1973)本四架橋ルート of 島々の昆虫相 本四架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書(動物)
- 6) 広畑政己(1980)エソスジグロシロチョウの採集記録数例 ひろおび №5
- 7) 日本鱗翅学会四国支部(1979) 四国の蝶 高知

ゴイシジミ淡路島に産す

淡路島から未記録のゴイシジミ(*Taraka hamada Druce*)が、洲本市で採集されたことを確認したので報告する。

- (1) 採集年月日 1980年6月1日 1♂
採集地 洲本市中川原町安坂
採集者 前川和昭
- (2) 採集年月日 1980年7月20日 1♂
採集地 洲本市中川原町安坂
採集者 前川秀樹(安乎中2年)

なお、8月5日にも同所でかなりの個体を確認し、そのうち数頭を採集されたそうである。資料の提供をいただいた前川和昭氏と前川秀樹君に厚くお礼申し上げます。(堀田 久)

トラフジミ三熊山にも産す

淡路島での *Rapola arata Bremer* トラフジミの既知産地としては、南淡町灘、阿万、諭鶴羽山などが知られるだけで、全国的には普通種であるが、淡路島内では比較的希な種とされている。

筆者は、本年(1980)7月13日に洲本市の三熊山に出掛けた際、本種の比較的新鮮な1個体を目撃したので記録しておく。(登日 邦明)

淡路島未記録のカミキリ8種

金 田 昌 士

次の淡路島未記録のカミキリムシを採集したので報告する。なお標本は筆者が保管している。

1. シロオビゴマフカミキリ *Falsomesosella gracilior*
lex. 1980-VI-13 先山
2. シロスジドウボンカミキリ *Pothyne silacea*
lex. 1980-VI-1 三熊山
3. ドウボンカミキリ *Pseudocalamobius japonicus*
lex. 1980-VI-13 先山
4. ナカジロサビカミキリ *Pterolophia jugosa*
lex. 1980-VI-13 先山
5. シロオビチビカミキリ *Sybrodiboma subfaciata*
lex. 1980-VI-13 先山
6. アトモンマルケシカミキリ *Exocentrus lineatus*
lex. 1980-VI-4 三熊山のイヌビワより羽化
7. クモガタケシカミキリ *Exocentrus fasciolatus*
lex. 1980-VI-4 三熊山のアカメガシワより羽化
8. ヒゲナガヒメルリカミキリ *Praolia citrinipes*
2 exs. 1980-VI-24 先山のカゴノキより羽化

トサヒラズゲンセイ淡路島に産す

Horia tosana Kono トサヒラズゲンセイは、クマバチの巣に寄生する特異な形態をした南方系の甲虫である。

筆者は数年前に、恩師の一人である久保田真源先生から自宅の庭で採集された本種の生品をいただいてその分布を確認していたが、記録が遅れていたため今回報告しておく。

洲本市金屋，1♀，1.VII.1977（久保田真源採集）

本種は従来、四国・九州の南岸の温暖で雨量も多い地域で採集されていたもので、今回の記録はほぼ北限になるものと思われる。

末筆ながら貴重な資料を提供下された久保田先生に厚くお礼申し上げたい。（登日 邦明）

洲本市でゴイシジミを採集

1980年8月5日午後1時半ごろ、洲本市宇山の陀仏川上流、名号石橋付近でササの葉に静止しているゴイシジミ *Taraka hamada Druce* の♀1頭を目撃し、採集した。

また、次の日の6日の午後1時ごろ同所において、飛翔している♂1頭を採集し、午後6時ごろ、同所において、♂1頭を採集した。更に、次の日の7日の午後2時ごろ上記と同所において、♂2頭を採集した。

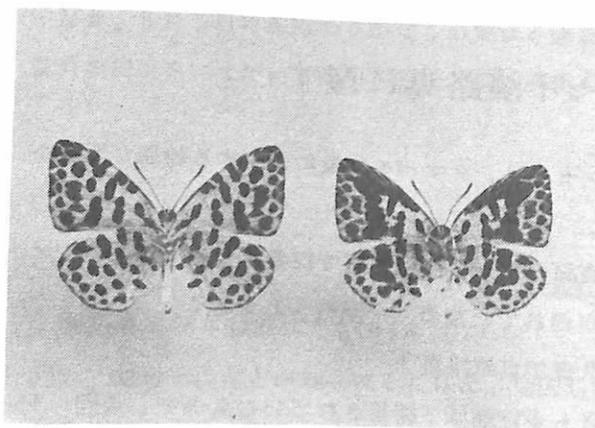
そして、1980年8月17日午後3時ごろ洲本市先山登山口より1kmほど登ったところでも、飛翔している♀1頭を目撃し採集した。

本種は以前(1979年9月)、洲本市下加茂で目撃していたが、採集できずに終わっていた。

(林 俊雅)

ゴイシジミの異常型

本年(1980年)6月1日、淡路島最初のゴイシジミが採集されたが、筆者は発見者の前川和昭氏より生息地について御教示をいただき、8月10日に洲本市中川原町安坂へ出かけた。現地に着いたのは午前11時頃であったが、タケノアブラムシが寄生したメダケの葉裏に静止しているゴイシジミを確認することができた。



左 正常型♂裏面 右 異常型♂裏面

♂♀各数頭ずつ採集した中に、写真のように前後翅裏面の黒点が連続した♂の異常個体があったので報告する。

なお、当日本種の卵・幼虫・蛹も採集し現在飼育しているので、その詳細については次号に発表する予定である。

(堀田 久)

PARNASSIUS №23

1980年9月6日 印刷
1980年9月10日 発行
編集者 登日邦明
発行所 淡路昆虫研究会
〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235 登日方
郵便振替 神戸 49595
印刷所 れいめい社
〒656 洲本市本町5丁目1-24